

令和7年度 第2回 運営会議ニュース

日 時	令和7年7月13日(日) 13:30~15:10
場 所	県立座間谷戸山公園 パークセンター(レクチャールーム)
出 席 者	13名

~議題~

各ゾーンエリアの管理について(各団体等からの報告事項)

●グリーンタフ・谷戸山公園グループ

・5月18日: 参加者11名。自家受粉を避けるために雄しべと雌しべ雌雄異熟について学びルーペで観察を行った。今を盛りと咲いているウノハナやエゴノキ、トチノキを観察。野鳥の原っぱへ移動しハンショウヅルの釣鐘状の花と、全くその姿から想像できないような、羽毛状のタネを観察した。長屋門前の芝生ではニワゼンショウとキショウブの花を観察し、構造について説明を行った。わきみずの谷へ行く道筋ではサイハイラン、ハナイカダの実、まだ花をつけるには至っていないイワガラミなどを観察。最後は、道筋の石垣に白い花を咲かせているユキノシタを観察。名前の由来は様々あるようで虎耳草という名もあるが、ウサギの耳のようにも見える。

・6月15日: 参加者13名。「梅雨時の谷戸山公園を観察しよう」という漠然としたテーマを掲げて観察会をスタートした。先月咲いていたウツギは花の時期はすでに終わり、実に移行していた。コクサギやミズキ、ムクノキとケヤキの葉を観察。田植えが終了した田んぼを目前にして、水を張る一番の理由を雑草対策であることを説明した。畑作では、「連作障害」を起こしやすいが、田んぼでは新しい養分が供給されるので「連作障害」となりにくい。これらが昔から同じ場所でイネ作りが繰り返されてきた理由である。また、園路の途中にあるクサギの葉に触れてもらった。臭いは精油成分のクレロデンドリンであり、味は苦く抗菌作用があるという。それぞろ多くの植物が葉を食べられないように工夫していることを話した。ガマズミは花が終わり若い実になっていた。ミズキの花との共通性として甲虫類が花序に着陸しやすい構造になっていることを説明した。

●座間のホタルを守る会

・ホタル出現調査の報告が行われた。2025年度は昨年とほぼ同数で、ピークは昨年より遅く6月10日から20日。田んぼやわきみずの谷、湿生生態園で良く出現していた。また、7月11日に2月と同様に北谷戸水路にかぶさる草枝の除去や両岸の草刈り、流れの再開を行い枯渇していたカエル沼の復活作業を行った。

●谷戸山ボランティア

・4月にわきみずの谷へ移植したスイレン(2プランターに各4株)は、7月9日に確認したが1つのプランターだけ生育していた。わきみずの谷では、クサレダマ、チダケサシが確認された。また、伝説の丘でツルニンジン、多目的広場でニガクサ、北11でツルニガクサが確認されている。

●ふるさとフォーラム座間

・座間の森(ハナショウブ)が良く咲いた。合計で400~500株以上、時期は6月1日から下旬までであった。また、立野台公園へ株分けを行った。7月17日(木)に草取りを行う予定。

その他

●県厚木土木事務所東部センター

・令和6年度の継続事業(ナラ枯れ伐採・運搬処分、測量)の進捗と今年度の事業(デッキ園路・手すり改修、園路舗装)の説明が行われた。また、防災井戸の自家発電機改修は内容を検討中であり、今年度改修予定であるとの報告があった。

●公園

・運営会議及び関係者向けに公園内の植物についての資料を配布した。

次回開催日時	9月14日(日) 13:30~15:00
--------	----------------------

※進捗状況や最新情報も必要に応じて記載しています。※運営会議への提案や傍聴を希望される方は、公園管理事務所まで。